

強まる創作への思い

洋画家 熊谷 有展さん(50)＝熊本市

極細の筆で、油絵の具を丁寧に点描していく。1点の大きさはミリ単位。それを無数に重ねると、柔らかなシルエ

ットの母子像などが出来上がる。「小さな点が集まれば、線になり像になる。大きなものも表現できる」と話す。



個展で公開制作。母子像を描く熊谷有展さん。熊本市中央区の崇城大ギャラリー。

本格的に点描画に取り組んだのは、7、8年前。パレットに出した絵の具の美しさを、そのままキャンパスに表したかったという。方眼紙のような点線も施しており、近くで見ればそれと分かる面白さもある。

昨年の熊本地震で、絵が一時描けなくなった。自宅の片付けに追われ、「日が昇るのが毎日嫌でたまらなかった」。ライフラインの復旧に伴い、「このままじゃいけない」と自分を奮い立たせた。

まず点描で描いたのは、南阿蘇村に住む親戚を、地震後に訪ねた時に木立から見た朝日。普段は2年かかる120号の

大作を5カ月で完成させた。「地震という闇がずっと続くわけじゃない。無心で描いた」

以前は「絵で成り上がろう」という思いが強く、親子の情愛や人の絆など普遍的なテーマを表現してきた。近年、母子像に涙ぐむ20～30代の母親らに会い、絵を見る側の気持ちを持ちをより考えるようになった。「画家である自分も社会の一員。絵を見て前向きな気持ちになってもらえたら」。地震を機に創作への思いは強まっている。

崇城大芸術学部の教授でもあり、同大ギャラリー（熊本市中央区）で28日まで個展を開催中。（中原功一朗）